

- 1 派遣期日 令和元年 10 月 11 日(金)～12 日(土)
- 2 研修先 会場名 横浜国立大学教育学部附属鎌倉小中学校  
所在地 神奈川県鎌倉市雪ノ下 3-5-10  
http://www.kamajhs.ynu.ac.jp/

3 研修内容

**研究主題 資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントと学習評価の充実**

教育課程に関する研究会・発表会は少ないなか、鎌倉小中学校では早くから調査・研究・実践が行われている。今回は本主題での2年次の研究発表であり、発達段階に合わせた指導方針や授業展開、カリキュラムデザイン等を公開し、具体的で実践的な研究協議が組織的に継続されていた。

(1)年間カリキュラムデザイン

視察校では、「子どもの思考を軸にしてどのようにデザインするか」ということを意識した授業づくりが行われている。年間カリキュラムデザインは、「学級の子どもの実態に合わせ、子どもの育ちをどのようにデザインしていくか」という視点を大切に、年間の各教科の学習や各教育活動を有機的に繋げ、育てたい資質・能力とその評価が一目で分かるデザインシートである。作成にあたっては、次のような3つの視点でデザインされていた。

- ① 教科での学習が年間を通してどのように有機的に繋がっているのか……………【深める視点】
- ② 教科同士の学習がどのように有機的に繋がっているのか……………【広げる視点】
- ③ 教科の学習が各教育活動とどのように有機的に繋がっているのか……………【広げ・深める視点】

特徴的なのは、**全学級ごとに作られ、担任としての思いや願いが伝わるシート**になっている点にある。各教科の年間指導計画ではないので、3つの視点の全てを盛り込む必要は無く、**教科横断的・学年横断的に教育課程全体を俯瞰**しながら学級の子どもの実態に応じて作られている。年に1度の形式的なものではなく、毎学期見直し・修正が図られ、育てたい子どもの姿を強く意識し、自分たちが運用・実践しやすいように、忙しさに流されることなく指導の立ち位置をいつでも確認できるように工夫されているため、**教員一人一人の意識が高く保たれる仕掛け**になっていた。

教員一人一人がカリキュラム・マネジメントの視点をもてるようにする仕掛け

## (2) 学習評価

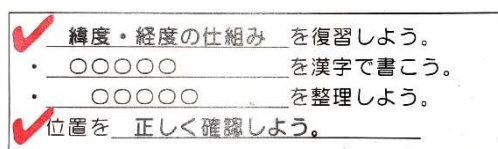
学習評価は、これまで多くの場面で教科や学年に委ねられている現状があり、**教科や教師による評価方針・評価方法の違いによって、信頼性や妥当性の高い評価になっているとは言えない実態もある**。今回の学習指導要領の改訂に伴い、学習評価が3観点に整理されることから、観点別評価一つ一つの重要性はさらに増している。視察校では、新学習指導要領の円滑な実施に向け、学年・教科の枠を超えて指導と評価の一体化に向けた取り組み①～⑤がなされていた。

- ①単元の導入や展開の段階に評価場を設定する。  
⇒教師による評価とコメントにより、生徒への具体的な学習改善を図る。
- ②生徒間における相互評価を授業内やワークシート内に設ける。  
⇒生徒が自身の良い点や可能性に気づくことで自己肯定感を高め、主体的に学ぶ意欲へつなげる。
- ③「努力を要する」生徒が「おおむね満足できる」状況へ到達できような支援を怠らない。
- ④学習評価の方針を事前に共有する。  
⇒生徒に学習の見通しをもたせ、自己学習調整を図らせる。
- ⑤「主体的に取り組む態度」の具体的な評価方法を工夫し、検討を重ねる。

特に、予め示されている教師の評価のポイントをワークシートやミニテストの評価欄に入れておくことで、

- ・生徒の振り返りや自己評価がブレにくい
- ・生徒にとって学習の指針の1つとなる
- ・教師にとって似たようなコメント記入の効率化を図る

などのメリットを生み出していた。

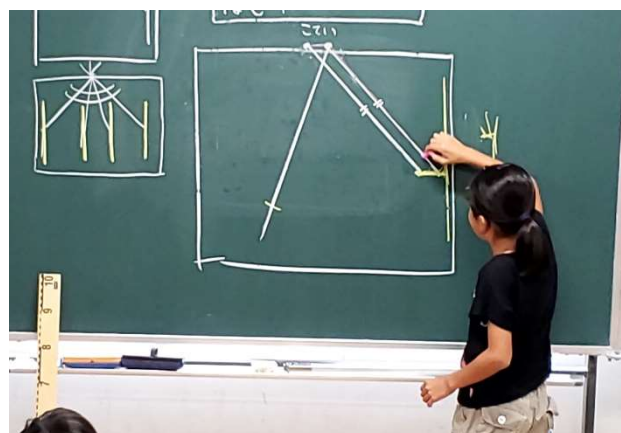


地理の学習でのコメント欄の例

## (3) 公開授業（小4算数「身近にある四角形」）

小中の接続を意識した平行四辺形の課題設定の例として「バスや電車のワイパーは、アームが左右に動いてもまっすぐなのはなぜ？」という授業が行われた。机の移動をしなくても数名のつぶやきをきっかけにペアやグループで自然と議論が始まっていた。特徴的なのは、ノートに図をどんどん描き始め、**合っていても間違っている姿が非常に多かったこと**である。また、**教師の問い返しも絶妙で、問い返される度に子どもたちは近くの子と相談を始め、「分かった！」**「じゃこれは？」と入れ替わり立ち替わり、自分の論を説明しに前に出てくる姿が続いた。

これは、中学2年で学習する「平行四辺形の性質」「平行四辺形であるための条件」に直結する内容で、小中の接続を意識した課題設定の素晴らしさと学びの深さを実感した。



次々と自分の考えを自由に説明できる雰囲気がある

- S:「これが平行四辺形で、動いたやつも平行四辺形だから」  
T:「平行四辺形が動いたときって、いつもココは本当に水平？」  
S:「だって、上の辺が固定されてるから、こっちも水平になるじゃん」  
T:「ということは、2本のアームの長さが同じで、平行になるようにつないだワイパーは、上の固定した辺と平行になるってことかな？」  
S:「うん、多分そうだと思う。。。」

考えを揺さぶったり、導いたりする問い返し

## 4 感想

カリキュラム・マネジメントの視点は、管理職・教務主任・研究主任だけでなく、全職員が意識できると、チームとして、より意識の高い集団づくり・組織づくりにつながると実感した。評価についても同様である。若手教員が急激に増えている今、自分の教科だけで収まるのではなく、広い視野をもって指導や評価を改善していくための大きなヒントを得ることができた。今後の授業や研修に還元させていきたい。